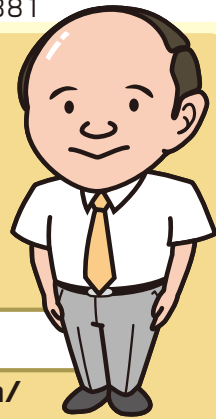


活動報告号外

西野まさひと



ハッキリ言います! 市政にひとこと!

[ホームページもみてね!] <http://www.nishino1.com/>

西野まさひと友の会では先の参院選の結果を受けた西野議員の所感を報告いたします。また、裏面では補助金事業の視察を報告します。

民主大敗! 参院過半数を大きく下回る!

7月11日に行われた第22回参院選では民主が大敗を喫し、改選議席は44議席に留まりました。大敗の要因は、菅総理が党内論議も経ず安易に持ち出した消費税10%増税論議であると思われます。

しかしながら、消費税論議のみに焦点をあてて今回の参院選を振り返ると、消費税増税反対を中心に選挙戦を戦った民主党・共産党は大敗し、マニフェストに社会保障の財源とする条件付きで消費税10%増税を早々に掲げた自民党は改選議席を51議席にのばす予想外の大勝をおさめました。一見矛盾するようなこの結果に、有権者の政治に対する厳しい意見が集約されていると思います。

今の日本の財政状況を思えば、増加し続ける社会保障費に対して消費税の増税なくしては対応できないことは既に多くの国民が理解しており、消費税増税論議は避けて通れないと考えていると思います。しかし、民主党が政権をとってから「無駄をなくせば財源は充分にある」と豪語していたにもかかわらず、予算編成にシーリングを外し、結局、自民党時代を上回る赤字国債を発行することとなりました。そして、子ども手当にはじまり、農家の戸別所得保証や高速道路の無料化など、財源確保のままならないなかで「バラマキ」と言われても仕方の無い施策を続ける政府に



不審を抱いていた国民が、菅総理の消費税論議にさらに不信感をつのらせたのだと思います。

7月14日の読売新聞の世論調査では、「内閣支持率急落38%」とあり、自民党の谷垣総裁は「早期に衆院解散・総選挙で国民に信を問うべきだ」発言していますが、この世論調査には他にも注目すべき点があります。自民党の議席増の理由の項目では、「民主党政権への批判」が71%を占めています。みんなの党の躍進については、「民主党と自民党への不満」が45%でした。

■今こそ自民党の改革を

現在の財政赤字を作り出した責任の多くは自民党にあることはまぎれもない事実です。今回の参院選の結果で、国民が自民党に政権復帰を願っていると思うのはあまりにも早計です。ねじれ国会になった今こそ山積する課題に対して野党としてどのような対応ができるのかを国民は問うていると思います。まずは議員定数の削減など政治が身を削り、公務員の定数削減や人件費カットに早期実現する道を開くべきです。

また、これまで政権与党時には利権としがらみによって実現することが出来なかった自民党の体質改善にも着手すべきです。まずは候補者選定の公募など、世襲制から脱却し、硬直した党の体質を改善すべきです。また、地方政治の現場でも多選による議員の職業化をなくし、志のある若者が積極的に政治に参加できる体制を作るべきです。

私、西野まさひととは先の市議選で市議は3期までと公約しました。議員は一人の人が職業として独占的に長く携わるべきものではないと考えるからです。議員には専門的な見識が必要だとその反論もありますが、3期で充分ではないでしょうか。むしろ多選による権力の集中など弊害のほうが多いのではないかと思います。これからも地方政治の現場で、ハッキリと指摘・提言をしてまいりますので、ご指導・ご鞭撻をお願い致します。

日野市議会議員 西野正人



補助金事業の 検証視察を実施!



現在、地方自治体では都や国から還元された税によって補助金事業が数多く行われています。議員にとって補助金を獲得して事業を行うことは大きな成果としてとらえるものです。しかしながら、補助金事業はややもすると既得権益化しやすく、本当に有効な事業かどうか常に検証を怠らないことが必要です。

西野議員は先の3月議会で市の補助金事業の検証の重要性を訴え質問しました。その後、事業の有効性や実状を把握するために精力的に視察を行っています。

西野まさひと友の会では、西野議員が行った視察を取材し、その事業の内容と有効性や課題を精査し、市民の皆様へ報告することにいたしました。視察した事業は次の事業です。

- 6 / 16 トマトたる栽培
- 7 / 6 クリーンセンター汚泥処理施設
- 7 / 12 百草観音堂内文化財補修

この内、「トマトたる栽培」と「クリーンセンター汚泥処理施設」の二事業について報告します。



靴からスリッパに履き替え温室内に入るとトマト鉢が整然と植わっており、従来の栽培方法と全く違うことに驚きました。鉢の中は椰子の皮、真ん中に肥料、水遣りは午前中一時間に一回自動で行われています。無農薬栽培を行っているため病気の発生を防ぐために受粉後の花弁をピンセットで取り除くという手の入れようでした。また、年二回収穫でき、採算も取れるということで都市農業の今後のあり方の参考にもなりました。

この事業は東京都の補助金と日野市の補助金があてられました。補助金が有効に使われている事業であると認識しました。また、同行した他の市議会議員からも素晴らしい事業であると評価されました。この事業に対して補助金を頂くにあたり、ご尽力なされた関係職員に感謝するとともに今後も有意義な補助金獲得を期待します。『気になるお味は、嘘も無くおいしく是非ご賞味を!』



この事業は平成21、22年度の二ヶ年に渡り旧施設の解体、新施設の建設が行われましたが、総事業費は約4億円です。補助金においては、国の交付金が約9500万円で、都の総合交付金から約2200万円があてられ、残りは起債にてまかなわれました。

現在、日野市では下水道整備もずいぶん進みましたが、まだ整備されていない地域においては、浄化槽を使用して処理しています。そしてその浄化槽は定期的に清掃を行う必要があります。その際に出る浄化槽汚泥や、建設現場などにおける仮設トイレから出るし尿を再生処理しなければなりません。この作業を行う施設がこの汚泥再生施設です。この施設の特徴は、脱水処理して回収した汚泥を助燃剤としてごみ焼却炉にて焼却することのでき、燃えにくいごみの燃焼を助けるなど環境に配慮がなされているところです。

評価としては、環境を守るための最先端技術を活用しており、コンパクトで省エネルギーな次世代システムを取り入れた素晴らしい施設でした。また、今回の視察では多くの意見交換もなされ、有意義な視察でした。